

The Membership of the National Museum of Modern Art, Kyoto



# 京都国立近代美術館 友の会会報

2007  
SUMMER  
第14号



レオン・バクスト 「フェリチタ」の衣装デザイン(バレエ「上機嫌な婦人たち」より) 1916年  
ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵



## 舞台芸術の世界— ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン

1909年、芸術プロデューサーのセルジュ・ディアギレフは、20世紀舞台芸術の革命として今日まで語り継がれているバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）をパリのシャトレ劇場で旗揚げします。リムスキー＝コルサコフ、ストラヴィンスキー、プロコフィエフら当時の前衛音楽家、アンナ・パヴロワやニジンスキーら天才的舞踊家、そして『衣装のドラクロワ』と当時称されたレオン・バクストら前衛美術家など多方面の才能を結集させたバレエ・リュスは、音楽、美術、舞踊が一体化した最先鋭の総合芸術として、1910-20年代の欧米の芸術界に大きな衝撃を与えました。このバレエ団成立の母体となったのが、1898年から約20年間 Санктペテルブルクの芸術家と文学者が活動したグループ『ミール・イスクーストヴァ（芸術世界）』です。このグループの中心的存在であったディアギレフと画家アレクサンドル・ブノワは同名の雑誌を創刊し、パリ、ミュンヘン、ウィーンなど西ヨーロッパの新しい芸術の動向を紹介することでロシア国内の芸術の活性化を目指しました。こうした活動は、20世紀に入り、革命前後の美術や演劇におけるロシア・アヴァンギャルドの台頭を促しました。本展覧会は、欧米で華々しい成功を収めたバレエ・リュスの活動を中心に、東方ロシアとしての国民的アイデンティティの模索、ニキータ・バリエフやメイエルホリドラの劇場やキャバレーでの演劇における革新、そしてキュビズム的未來派や構成主義の実験へと続く、舞台、美術、音楽にまたがる近代ロシアの芸術運動の軌跡を辿ろうとするものです。

パリでの初演当初、ディアギレフが採用したスラヴやオリエント、古代ギリシャやエジプトを題材とした演目と、バクストがデザインした異国情緒溢れる衣装と舞台装置は、当時パリの観客を異文化に対する憧憬の世界へと誘いました。今回の展覧会の見どころの一つでもあるバクストのデザイン画は、躍動感と官能性に満ちたダンサーのポーズ、エメラルド・グリーン、青などの鮮やかな色彩、布地を覆う繊細な装飾によって、



レオン・バクスト ワツラフ・ニジンスキーのための衣装デザイン（バレエ「ペリ」より） 1911年 ニューヨーク、スタヴロフスキー蔵

絵画としても高い完成度を持っています。一方、バレエ・リュスの美術史におけるもう一つの重要性は、キュビズムや未來派、シュルレアリスムなど当時パリで最盛期を迎えていたモダン・アートの芸術家たちを巻き込み、アヴァンギャルドの巨大な実験場を提供したことにあります。ディアギレフは前衛美術家に積極的に働きかけ、ピカソやマチス、ゴンチャロワ、ラリオンノフらを舞台美術の担当に起用しました。ストラヴィンスキーの音楽とニジンスキーによる振付で有名な『春の祭典』や、コクトーの台本、サティの音楽、そしてピカソが舞台美術を手がけた『パラード』など、実験的な作品を次々と上演し、従来のバレエや舞台作品のあり方への問題提起として大論争を巻き起こしました。

本展は、舞台の映像記録がほとんど残されていないバレエ・リュスを、舞台や衣装のための素描約100点、当時の舞台衣装10点、貴重な記録写真やプログラム、1985年にパリ・オペラ座がディアギレフを称えて再現した『薔薇の精』（1911）、『ペトルーシユカ』（1911）、『牧神の午後』（1912）の映像記録など全190点で構成され、伝説の総合芸術バレエ・リュスを可能な限り立体的に紹介します。（当館研究員・牧口千夏）

美

心

短

信

## 友の会春の見学ツアー(2007年5月20日) 大和路の初夏を愉しむ

いつかきっと、ひどい目に遭うのでしょうか、今回まで4回、当館の友の会の旅はいつも天候に恵まれています。朝は、夜来の雨の雲がまだ山際にわだかまって、小雨も降る中を出発しましたが、往く程に晴れ間も見え、京都一奈良の道中は新緑が輝くばかり美しい季節でした。最初の訪問先、富本憲吉記念館は、1974年、富本憲吉の生家を整備して展示館にしたもので、もう、生家自体は失われ、新しく建て替えられた建物ですが、大きな敷地を構えた庄屋であったことが、その外観から窺えます。展示品は資料的なものが多く、それが、この記念館の設立意義でもあるのですが、目下、富本憲吉展がほぼ一年をかけて全国を巡回中(当館では、2006年8月に開催)で、それに貸し出されて、さらに所蔵品が少なくなっているようでした。富本の亡くなる前後のこと、記念館の成立に尽力した人々のことなど、めづらしいお話を伺うことができました。農家や畑は少なくなりましたが、広々とした大和平野の展望は未だ残り、東京祖師谷の家から移植された定家葛のはい上がる邸前の大樹には、賑やかに鳥たちが遊んでいました。ただ、



慈光院の庭・サツキの大刈り込み



学芸員の解説を聞く(松柏美術館にて)

少し気がかりだったのは、以前友の会で来館した折に較べて、ややさびれた感のあることです。文化事業は公私を問わず、お金のかかる割には収入を上げられないという宿命を負っています。こことて、御多分に洩れないのでしょうか。第二の訪問先は慈光院。片桐石州の創建になる禅寺ですが、庭のサツキの大植え込みは未だ早かったようでした。ここは借景に大和平野の眺めを取り込んで作られた庭ですが、スーパーマーケットや娯楽施設の大きな看板が、景観を損なっていて、残念な気がしました。精進の昼を頂き、最後の訪問先、松柏美術館へ向かいました。特別展<熱帯花鳥へのあこがれ>が最終日で、いつもより賑わっていました。担当学芸員から懇切な説明を受け、対比できるように陳べられた石崎光瑠と上村松篁の熱帯花鳥の作品を鑑賞しました。奥の庭園が3時までの開園だったのを知らず、皆様には申し訳ありませんでした。桜の頃、名月の頃、小宴をその庭でされるそうです。時間厳守のお手本の如く、5時30分に近代美術館前に帰着しました。次回は10月を予定しています。一泊で少し遠出をしたいと思っておりますので、是非ご参加ください。



民芸風の記念館の前で説明を聞く(富本憲吉記念館にて)

## コレクションに見る〈前衛〉

6月6日(水)―7月16日(日)

前衛という言葉は、主に芸術を中心に使われてきたが、この言葉自体がもはや、古典的な響きを伝えている。前衛が文字通り〈前衛〉として輝いていたのは、ヨーロッパを中心とした1910-20年代、日本では大正時代である。今回開催される「舞台芸術の世界」展は、その時代のセルゲイ・ディアギレフ率いるロシア・バレエ団の舞踊、音楽、舞台装置などから、舞台衣裳のための素描、舞台衣裳などを紹介するものであるが、彼等の活動は20世紀初頭の芸術全般に大きな影響を及ぼした。当館のコレクションにも、例えば、長谷川潔の木版画：文学雑誌『仮面』の表紙〈ダンス〉や村山知義の〈サディスティッシュな空間〉のように、この時代の空気を敏感に感じ取った作品があ

る。それらを一室に纏めて紹介します。(R・K)



村山知義作 サディスティッシュな空間 1921-22

## 友の会の催し

### ワークショップご報告

福田平八郎展開催を機会に、京都表装協会の伝統工芸士の方々のご協力を得て開きましたワークショップは、福田平八郎の作品〈漣〉の制作効果を中心に、金箔やプラチナ箔を用いて、実演と解説が行われましたが、実演の間から、参加者の熱心な質疑応答があり、充実した2時間となりました。ワークショップ終了後も、多くの方が引き続いて見学され、このような機会を今後も増やして欲しいという要望も聞かれました。日本画の展覧会の機会を利用して、これまで3回、同様のワークショップを開催してきましたが、表装は長い歴史に培われた深い世界。今後も、追々機会を捉えて紹介してゆきたいと思えます。

### 友の会コンサート

第2回 オータム・ナイト・コンサート  
 日時：平成19年11月17日(土)  
 午後6時開演  
 会場：当館1階ロビー  
 曲目：未定ですが、弦楽の予定。

第3回 クリスマス・コンサート  
 日時：平成19年12月22日(土)  
 午後6時開演  
 会場：当館1階ロビー  
 曲目：未定ですが、管・打楽器が中心となる予定。

### 一階展示ロビーの展覧会 〈シビル・ハイネン:空間を折る〉

11年前の1996年、当館で開催された〈テクスタイルの冒険―現代オランダの4人のアーティスト〉展に出品した4人のうちの一人、シビル・ハイネンの最新作を展示するもの。ファイバー・アーティストだが、織物より、多様な素材を用いたインスタレーションに造形的な気宇の大きな世界を展開する。当館一階の展示ロビーの空間を、縦横に生かした大作が制作される。

- 開館時間  
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 夜間開館  
4月15日(金)―9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日  
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
- 休館日  
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、及び年末年始  
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)

※お車で越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

### 交通案内



独立行政法人国立美術館  
**京都国立近代美術館**

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
 TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900  
 ホームページ <http://www.momak.go.jp>